

参考図書について

作文コンクールは、地域的・時間的に大きな広がりを持つ「オリエント世界」についての作文を募集するものです。地域では、中央にイラク(メソポタミア)を置いて、西は北アフリカ(エジプトを含む)から、北はアナトリア、南はアラビア半島、東はイランまでを覆い、時間的には、紀元前4千年紀から、イスラームが起こる紀元後7世紀以降、現代までを含みます。このように時間的にも空間的にも広大であることに加えて、「オリエント世界」の歴史に登場する民族や文化も多様であり、複雑な歴史を歩んできました。そこにオリエント世界を学ぶ楽しさがあるにしても、すべてを網羅した参考図書を挙げることは困難と言わざるをえません。したがってここでは、現在市販され、比較的廉価で入手しやすい書籍を中心に示すことにしました。さらに深く学びたい方は、これらの本から始め、それぞれの本の末尾に収録されている参考文献表から本を選び読むという、いわゆる「芋づる式」のやり方で関連書籍を集めることが、遠回りのようでいて、実は「王道」を行く方法です。

古代オリエント全般

- ・小川英雄・山本由美子『オリエント世界の発展』(世界の歴史)、中央公論新社(中公文庫)、2009年(1,903円)
- ・前川和也・屋形禎亮他『人類の起原と古代オリエント』(世界の歴史)、中央公論新社(中公文庫)、2009年(2,057円)

古代エジプト

- ・内田杉彦『古代エジプト入門』岩波書店(岩波ジュニア新書)、2007年(907円)
- ・河合 望『ツタンカーメン 少年王の謎』集英社新書(集英社新書)、2012年(821円)
- ・近藤二郎『ヒエログリフを愉しむ—古代エジプト聖刻文字の世界』集英社(集英社新書)、2004年(778円)
- ・マーセル・マレー(近藤二郎監修)『ファラオと女王』学芸書林(大英博物館双書)、2011年(1,620円)
- ・ビル・マンリー(近藤二郎訳)『はじめてのヒエログリフ実践講座』原書房、2014年(2,592円)
- ・村治笙子・片岸直美『図説 エジプトの「死者の書」』(ふくろうの本)、河出書房新社、2012年(1,944円)
- ・吉村作治『ピラミッドの謎』岩波書店(岩波ジュニア新書)、2006年(907円)
- ・和田浩一郎『古代エジプトの埋葬習慣』ポプラ社(ポプラ新書)、2014年(896円)

古代メソポタミア

- ・岡田明子・小林登志子『シュメル神話の世界—粘土板に刻まれた最古のロマン』中央公論新社(中公新書)、2008年(972円)
- ・小林登志子『シュメル—人類最古の文明』中央公論新社(中公新書)、2005年(1,015円)
- ・月本昭男『メソポタミア文明の光芒—楔形文字が語る王と神々の世界』(MUSAEA JAPONICA)、山川出版社、2011年(1,749円)
- ・中田一郎『メソポタミア文明入門』岩波書店(岩波ジュニア新書)、2007年(842円)
- ・中田一郎『ハンムラビ王—法典の制定者』(世界史リブレット)、山川出版社、2014年(864円)
- ・前川和也『図説メソポタミア文明』(ふくろうの本)、河出書房新社、2011年(1,944円)
- ・前田徹『メソポタミアの王・神・世界観—シュメール人の王権観』山川出版社、2003年(3,024円)

古代オリエントのその他の文

- ・古代オリエント博物館編『古代オリエントの世界』(MUSAEA JAPONICA)、山川出版社、2009年(1,028円)
- ・薮勇造『シェバの女王』山川出版社、2006年(1,404円)
- ・長谷川修一『聖書考古学—遺跡が語る史実』中央公論新社(中公新書)、2013年(907円)
- ・長谷川修一『旧約聖書の謎—隠されたメッセージ』中央公論新社(中公新書)、2014年(886円)
- ・ヘロドトス(松平千秋訳)『歴史』全3巻、岩波書店(岩波文庫)、1971-72年(1,188円+1,015円+1,188円)
- ・山本由美子『ゾロアスター教 3500年』講談社(講談社学術文庫)、2010年(1,404円)

イスラームの文献

- ・赤堀雅幸(編)『民衆のイスラーム—スーフィー・聖者・精霊の世界』山川出版社、2008年(1,944円)
- ・飯塚正人『現代イスラーム思想の源流』(世界史リブレット)、山川出版社、2008年(787円)
- ・井筒俊彦『イスラーム文化—その根底にあるもの』岩波書店(岩波文庫)、1991年(713円)
- ・伊東俊太郎『12世紀ルネサンス』講談社(講談社学術文庫)、2006年(1,080円)
- ・イブン・ハルドゥーン(森本公誠訳)『歴史序説』全4巻、岩波書店(岩波文庫)、2001年(972+972+929+972円)
- ・私市正年『原理主義の終焉か—ポスト・イスラーム主義論』(イスラームを知る)、山川出版社、2012年(1,296円)
- ・小杉泰『イスラームとは何か—その宗教・社会・文化』講談社(講談社現代新書)、1994年(821円)
- ・後藤明『ムハンマド時代のアラブ社会』(世界史リブレット)山川出版社、2012年(787円)
- ・『コーラン』(井筒俊彦訳)全3冊、岩波書店(岩波文庫)、1964年(972+929+1,015円)
- ・塩尻和子・池田美佐子『イスラームの生活を知る事典』東京堂出版、2004年(2,700円)
- ・清水芳見『イスラームを知ろう』岩波書店(岩波ジュニア新書)、2003年(842円)
- ・東長靖『イスラームのとらえ方』(世界史リブレット)、山川出版社、1996年(787円)
- ・永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』(世界の歴史)、中央公論新社(中公文庫)、2008年(1,646円)
- ・深見奈緒子ほか『イスラーム建築がおもしろい』彰国社、2009年(2,484円)
- ・保坂修司『サイバー・イスラーム—越境する公共圏』(イスラームを知る)、山川出版社、2014年(1,296円)
- ・榎屋友子『すぐわかるイスラームの美術—建築・写本芸術・工芸』東京美術、2009年(2,160円)
- ・三浦徹『イスラームを学ぶ—史資料と検索法』(イスラームを知る)、山川出版社、2013年(1,296円)
- ・湯川武『イスラーム社会の知の伝達』(世界史リブレット)、山川出版社、2009年(787円)